

[研究報告]

G県の特別養護老人ホームに働く看護職の“やりがい”(第2報)

原 敦子¹⁾ 小野 幸子¹⁾ 林 幸子¹⁾ 坂田 直美¹⁾
 兼松 恵子¹⁾ 奥村 美奈子¹⁾ 梅津 美香¹⁾ 古川 直美¹⁾
 北村 直子¹⁾ 齋藤 和子¹⁾ 平山 朝子²⁾

“Worthwileness” of the Nurses Who are Working at the Nursing-Home
 in G Prefecture: Part 2

Atsuko Hara¹⁾, Sachiko Ono¹⁾, Sachiko Hayashi¹⁾, Naomi Sakata¹⁾,
 Keiko Kanematsu¹⁾, Minako Okumura¹⁾, Mika Umezu¹⁾, Naomi Furukawa¹⁾,
 Naoko Kitamura¹⁾, Kazuko Saito¹⁾, and Asako Hirayama²⁾

はじめに

本学では、看護実践研究指導事業の一環として、G県下の特別養護老人ホーム（以下、特養と省略）に個別訪問面接研修およびそれに基づくワークショップを行っている。これは、G県を5地区に分け、平成13年度はH地区・S地区、平成14年度はC地区・T地区、平成15年度はG地区と3年計画で行っているものである。

本報告は、平成13年度の報告¹⁾に引き続き、平成14年度に実施したC・T地区の全特養施設での個別訪問面接研修の情報から、特養における看護職としての活動を通じての「やりがい」の内容を検討したものである。

方法

1. 個別訪問面接研修の対象

G県下5地区のうち、C地区の全特養13施設およびT地区の全特養13施設の看護職。

2. 個別訪問面接研修の方法及び倫理的配慮

本学成熟期看護学講座教員が各施設に各々1～2名ずつ担当して訪問し、個別もしくは複数の看護職者を対象に半構造化面接を行った。面接時間は1施設につき、およそ1時間程度であった。訪問日面接ができなかった看護職者に対しては、面接を受けた看護職者を介して調査用紙を依頼し、別途返送によって意見を聞いた。

訪問面接に際し、まず施設長に事前に看護実践研究指導事業の趣旨及び本調査の趣旨を電話で説明し同意を得た。また、面接に応じた看護職者には口頭で看護実践研究指導事業の趣旨及び本調査の趣旨を説明し同意を得た。調査用紙で依頼した看護職者には、面接に応じた看護職者を介して看護実践研究指導事業の趣旨及び本調査の趣旨を説明してもらい、協力できる範囲で記入してもらえるように依頼した。なお、得られた回答の扱いについては個人名や施設名が特定されないように配慮した。

3. 面接内容

面接内容は対象者（看護職）の属性 所属施設について 入所者について 看護活動についてであり、の中で「特別養護老人ホームにおける看護職としての活動を通じてのやりがい」について自由に答えてもらった。

4. 個別訪問面接研修実施期間

平成14年8月5日～8月22日。

5. 分析方法

分析の対象は面接内容「特別養護老人ホームにおける看護職としての活動を通じてのやりがい」の回答があった対象者とし、その～については単純集計を行った。また、その回答内容から「やりがい」として、喜び・満足につながること・とき、自分にとってプラスになること・とき、特養で看護して良かったと思えること・とき、

1) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学講座 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 学長 President, Gifu College of Nursing

について述べられている部分を意味内容毎に1記述とし、できる限り表現されている言葉を用いて要約した。その後、要約した記述を類似性に基づいて分類・整理した。全分析過程は4名の成熟期看護学講座教員で合意が得られるまで検討を繰り返した。なお、対象者の属性について完全な回答でなくても「やりがい」に回答があった場合は、分析対象とした。

結果

個別訪問面接研修ではC地区20名、T地区15名の看護職と面接を行った。その後、別途返送で協力が得られたのはC地区32名、T地区12名であった。そのうち「特別養護老人ホームにおける看護職としての活動を通じてのやりがい」について、面接で回答があったのはC地区19

名、T地区14名、計33名、別途返送で回答があったのはC地区13名、T地区5名、計18名であり、対象者は、C地区32名、T地区19名、計51名であった。

1. 対象（看護職）の属性（表1）

年齢は、27～58歳、平均年齢44.1±8.2歳であった。現職場での経験年数は、3ヶ月～24年、平均経験年数5.1±5.9年であった。過去の経験年数は、0～32年、平均経験年数13.7±8.7年であった。病院・総合病院での勤務経験がないものは4名おり、このうち1名は現職場以外に経験がない者であった。性別、所有資格、職位については表1に示すとおりであった。

2. 所属施設について（表2）

全施設が併設施設をもち、ショートステイは26施設中24施設が併設していた。また、全施設とも医師は嘱託で

表1. 対象者の属性 n = 51

年齢	20歳代	3
	30歳代	13
	40歳代	17
	50歳代	17
	未記入	1
性別	女性	51
	男性	0
	未記入	0
	所有資格 (複数回答)	看護師
	准看護師	34
	ケアマネージャー	6
	介護福祉士	2
	未記入	0
職位	福祉課長	1
	看護師長	3
	主任	15
	副主任	1
	スタッフ	28
	未記入	3
	現職場での 経験年数	1年未満
1年～5年未満		23
5年～10年未満		10
10年～15年未満		2
15年以上		5
未記入		2
現職場以前 の経験年数	なし	1
	1年未満	0
	1年～5年未満	8
	5年～10年未満	9
	10年～15年未満	9
	15年～20年未満	8
	20年以上	13
	未記入	3
現職場以前 の職場 (複数回答)	病院・総合病院	44
	診療所・開業医・個人病院	5
	老人保健施設	2
	特養	2
	デイサービス	1
	訪問看護ステーション	1
	社会福祉協議会	1
	不明	2
	未記入	3

表2. 所属施設について n = 26

設置主体	社会福祉法人	24
	町立	1
	組合立	1
定床数	30床	2
	50床	8
	51～80床	14
	81～100床	1
	120床	1
開設年代	1970年代	3
	1980年代	4
	1990年代	16
	2000年代	3
併設施設	なし	0
	あり	26
内訳	ショートステイ	24
	デイサービス	18
	在宅支援センター	19
	ケアハウス	6
	訪問看護ステーション	3
	養護老人ホーム	3
	グループホーム	3
	老人保健施設	1
	居宅介護支援センター	1
	職員構成	看護職
専任の看護師のみ		0
専任の看護師と専任の准看護師		10
専任・パートの看護師と専任の准看護師		1
専任の看護師と専任・パートの准看護師		6
専任・パートの看護師と専任・パートの准看護師		3
パートの看護師と専任の准看護師		1
パートの看護師と専任・パートの准看護師		1
専任の准看護師のみ		1
専任の准看護師とパートの准看護師		1
パートの准看護師のみ	1	
未記入	1	
医師	嘱託	26

あった。設置主体、定床数、開設年代については表2に示すとおりであった。

3. 入所者について (表3)

75歳以上の後期高齢者が80%以上を占める施設は22施設であった。また、女性が70%以上を占める施設は21施設であった。介護度は、要介護4～5の入所者が50%以上を占める施設が20施設であった。重度痴呆が40%以上を占める施設は8施設であった。

表3. 入所者について

			n = 26	
年齢	75歳未満	10%未満	8	
		10～20%未満	14	
		20%以上	3	
	75～85歳未満	20%未満	1	
		20～30%未満	2	
		30～40%未満	10	
		40～50%未満	9	
		50%以上	3	
	85～95歳未満	20%未満	0	
		20～30%未満	1	
		30～40%未満	7	
		40～50%未満	14	
		50%以上	3	
95歳以上	10%未満	20		
	10～20%未満	10		
	20%以上	0		
	未記入		1	
性別	女性が70%未満		4	
	女性が70%以上		21	
	未記入		1	
介護度	要介護1	10%未満	14	
		10%以上	11	
	要介護2～3	20%未満	1	
		20～30%未満	8	
		30～40%未満	8	
		40%以上	8	
	要介護4～5	30～40%未満	1	
		40～50%未満	4	
		50～60%未満	9	
		60～70%未満	7	
		70%以上	4	
		未記入		1
	痴呆度	痴呆なし	20%未満	15
20～30%未満			6	
30～40%未満			0	
40%以上			2	
不明			2	
軽度痴呆		20%未満	12	
		20～30%未満	3	
		30～40%未満	3	
		40%以上	1	
		不明	6	
中度痴呆		20%未満	9	
		20～30%未満	3	
		30～40%未満	4	
	40%以上	3		
	不明	6		
重度痴呆	20%未満	3		
	20～30%未満	2		
	30～40%未満	6		
	40%以上	8		
	不明	6		
	未記入		1	

4. 「やりがい」について

1) 「やりがい」の有無について

特養の看護職としての活動を通じての「やりがい」を回答した人は35名であり、「やりがいはない」と回答した人は4名、「わからない」と回答した人は4名であった。また、「やりがい」が読み取れなかった人は8名であった。

2) 「やりがい」として述べられた内容について

「やりがい」として述べられた内容は60記述であった。この60記述を分類・整理した結果、【入所者の状態がケアによって好転したとき】、【入所者・家族から肯定的評価が得られたとき】、【入所者・家族の信頼が得られること・とき】、【入所者との触れ合いを大切にできること】、【病院での実践経験を活かし、自分の考えで判断し実施すること】、【最期までその人らしさを大切に生活援助中心のケアができること】、【入所者の笑顔・生活している姿を見ること】、【自分のこととして高齢者の看護ができること】、【病院ではできない経験ができること】の9つに分類された。(表4)

(1) 【入所者の状態がケアによって好転したとき】

この「やりがい」は8名が述べた9記述から得られた。これには[ケアによって状態が改善したとき][ケアによってやる気を出してくれたとき][身体の苦痛を軽減できたとき][ケアによって笑顔や安心が得られるとき]の4分類が含まれた。

(2) 【入所者・家族から肯定的評価が得られたとき】

この「やりがい」は、9名が述べた11記述から得られた。これには[ケアによって高齢者に喜んでもらえるとき][高齢者から感謝されたとき][家族から感謝されたとき][努力が報われたとき]の4分類が含まれた。

(3) 【入所者・家族の信頼が得られること・とき】

この「やりがい」は、4名が述べた4記述から得られた。これには[察母とは違う頼られ方をされていること][高齢者が安心して任せてくれたとき][家族から信頼されていること][信頼関係を築きながら活動していくこと]の4分類が含まれた。

(4) 【入所者との触れ合いを大切にできること】

この「やりがい」は、9名が述べた11記述から得られた。これには[自分の存在が入所者に受け入れられてい

表4. 「やりがい」の内容

大分類	小分類	回答内容の要約	
【入所者の状態がケアによって好転したとき】	[ケアによって状態が改善したとき]	ケア(外傷の処置など)で改善がわかったとき	
		ケアによって状態が少しでもよくなったとき (入所者に)よい変化が見られたとき 異常を早期に発見し, 対応した結果よくなったとき	
	[ケアによりやる気を出してくれたとき] [身体の苦痛を軽減できた時]	声掛けやケアで高齢者が変化する(ADLがアップする, 拘縮が改善する)こと 機能訓練を拒否された時, 話を聞き励ますことでやる気を出してくれたとき 身体の苦痛(便秘など)を軽減できたとき	
		[ケアによって笑顔や安心が得られるとき]	コミュニケーションで入所者の不安を少しでも解消できたとき 日常のかかわりや心のケアによって入所者が元気になったり表情が豊かな状態が引き出されたとき
【入所者・家族から肯定的評価が得られたとき】	[ケアによって高齢者に喜んでもらえるとき]	コミュニケーションを図ることや対応することによって高齢者に喜んでもらえること 入所者が喜んでくれたとき 入所者に薬などに頼らないでケアして喜んでもらえるとき ホームでの行事で, 入所者が声を出して笑ったり, よかったと言ってくれるとき	
		[高齢者から感謝されたとき]	老人に感謝されたとき ありがとうと言われること ありがとうと言ってもらえたとき ありがとうと言ってもらえたとき ありがとうと言われたとき
			[家族から感謝されたとき]
	[努力が報われたとき]		努力が報われたとき
【入所者・家族の信頼が得られること・とき】	[寮母とは違う頼られ方をされていること]	入所者から寮母とは違う頼りの仕方をされていること	
	[高齢者が安心して任せてくれたとき]	高齢者が安心して任せてくれたとき	
	[家族から信頼されていること]	本人はもとより家族からも信頼されてお世話できること	
	[信頼関係を築きながら活動していくこと]	信頼関係を築きながら活動していくこと	
【入所者との触れ合いを大切にできること】	[入所者と余裕を持って関わること]	医療処置が少なく落ち着いて入所者と関わることができること 病院で経験した忙しく表面的なことしか関われないケアではないこと 入所者のいろいろな面を知り, より理解できた上で看護職としての役割が果たせること ゆっくりと老人と話ができること	
	[高齢者との関わりから多くのことを学べること]	人間関係や人生について高齢者から学ぶことが多いこと 今まで出会ったことがない様々な性格の人の対話で人間観が広がったこと 高齢者に教えて頂けること 今自分が健康である時に高齢者のお世話をしながらたくさんの勉強ができること お年寄りの心遣いを感じたとき	
	[自分の存在が入所者に受け入れられていること]	入所者から笑顔や優しさを頂いたとき	
	[日常生活のケアを通して入所者と接する機会が増えたこと]	入浴介助に看護職も入るようになって, 入所者と接する機会が増えたこと	
【病院での実践経験を活かし, 自分の考えで判断し実施すること】	[自分の考えで判断し実施すること]	自分達の考えで判断し実施すること 自分達の考えで判断し実施すること 自分達の考えで判断し実施すること 自分達の考えで判断し実施すること 病院のように医師の指示で動くのではなく, 自分の考えで動くことができること 全て自分で考え, 評価もできること	
	[病院での実践経験が生かされたとき]	病院での実践経験が生かされたとき	
	[医師の代わりも担っている自分]	医師の代わりも担っている自分	
【最期までその人らしさを大切に生活援助中心のケアができること】	[喜び・悲しみを共にし, 入所者と一緒に生活を楽しむことができること]	生活を一緒に楽しむことができること 小さなことを皆で喜び皆で悲しむことができること	
	[最期まで本人の意向に沿った看取りができること]	家族と連携をとりながら本人の意向に沿った看取りができること	
	[利用者の意向に沿った援助ができること]	利用者の意向がかなうように援助ができること	
	[生活の場で最期まで対話できること]	生活の場で最期まで対話できること	
【入所者の笑顔・生活している姿を見ること】	[施設職員全員で入所者のことを一生懸命考えること]	寮母・事務所・看護職・その他の職員が入所者のことを一生懸命考えること	
	[在宅の人より快適に長生きしてもらうこと]	在宅の人より快適に長生きしてもらうこと	
	[入所者の笑顔を見ること]	入所者がニコリと笑われるとき 高齢者の笑顔を見ることができると 高齢者の笑顔を見ること 笑顔が見られること (入所者が)日々少しずつ明るくなったとき	
【入所者が施設での生活に適應できたとき】	[入所者が施設での生活に適應できたとき]	痴呆で帰宅願望が強かった人が自分の役割を見つけ, ここが家になりつつあるのを見たとき	
	[入所者が残存機能を発揮している時]	(入所者が)残存機能を発揮しているとき	
【自分のこととして高齢者の看護ができること】	[自分のこととして高齢者への看護ができること]	自分が人生の終末を過ごしたいと思える場所で働くことができること	
【病院ではできない経験ができること】	[病院ではできない経験ができること]	病院ではできない経験ができること 病院勤務では経験できないことをたくさんできること	

ること] [入所者と余裕を持って関われること] [日常生活のケアを通して入所者と接する機会が増えたこと] [高齢者との関わりから多くのことを学べること] の4分類が含まれた。

(5) 【病院での実践経験を活かし、自分の考えで判断し実施すること】

この「やりがい」は、8名が述べた8記述から得られた。これには [病院での実践経験が生かされたとき] [自分の考えで判断し実施すること] [医師の代わりも担っている自分] の3分類が含まれた。

(6) 【最期までその人らしさを大切に生活援助中心のケアができること】

この「やりがい」は、6名が述べた7記述から得られた。これには [喜び・悲しみを共にし、入所者と一緒に生活を楽しむことができること] [最期まで本人の意向に沿った看取りができること] [利用者の意向に沿った援助ができること] [生活の場で最期まで対話できること] [施設職員全員で入所者のことを一生懸命考えること] [在宅の人より快適に長生きしてもらうこと] の6分類が含まれた。

(7) 【入所者の笑顔・生活している姿を見ること】

この「やりがい」は、6名が述べた7記述から得られた。これには [入所者の笑顔を見ること] [高齢者が施設での生活に適應できたとき] [入所者が残存機能を発揮しているとき] の3分類が含まれた。

(8) 【自分のこととして高齢者の看護ができること】

この「やりがい」は1名が述べた1記述から導かれた。

(9) 【病院ではできない経験ができること】

この「やりがい」は2名が述べた2記述から導かれた。

． 考察

1. 対象者・施設・利用者の特徴について

対象者の特徴は、病院勤務経験のある女性の准看護師で、年齢は30～50歳代、現職場での経験年数は1～10年未満が多い傾向がみられ、現職場以前の経験年数は1～20年以上とばらつきがみられた。

所属施設については、1990年代に開設された、50～80床の社会福祉法人の施設が多い傾向を示した。全国調査²⁾では、50～80床の施設が全体の60.9%であること、社会福祉法人設立が87.3%であることから、C・T地区

の施設の規模は全国的にみて平均的な施設であると捉えられよう。

入所者については、後期高齢者の女性が多く、入所者の半数以上が要介護4～5である施設が多い傾向を示した。前述の調査³⁾では、入所者のうち要介護4～5が占める割合は、平均56.1%であった。入所者についても全国的にみて平均的な施設であると捉えられよう。

2. 特養に働く看護職の「やりがい」について

ここでは、昨年度報告した第1報⁴⁾では見出せず、新たに分類された「やりがい」のうち、【病院での実践経験を活かし、自分の考えで判断し実施すること】および【病院ではできない体験ができること】について考察する。

【病院での実践経験を活かし、自分の考えで判断し実施すること】は、特養で働く看護職は高度な臨床判断に基づく実践力が要求され、それを実行できることに「やりがい」を見出していると捉えられよう。これは、医師が囑託の体制であり、日常の健康管理が看護職に任されることになってしまうことが影響しているのではないだろうか。しかも入所者は、高齢で介護度が重くかつ痴呆度がさまざまであり、状態の把握が難しい高齢者であるといえる。また、医療機関の入院期間短縮⁵⁾により重度の健康障害を持つ高齢者の入所希望が増加している傾向をあわせて考えると、常勤医がいない状況で、高齢で脆弱な入所者の健康管理に加え、重度の健康障害を持つ高齢者にも対応していく必要があり、看護職はこれまで以上に高い臨床判断能力が要求されるようになってきているといえよう。このような中で、看護職はこれまでの病院での看護経験を活かし、変化の見えにくい高齢者の状態をアセスメントし、自ら判断し、実施せざるを得ないのが実態であろう。看護職は健康管理を担うチームの中心として重要な役割を果たしており、看護職がそのことに存在意義を感じているものと捉えられた。

【病院ではできない体験ができること】は、病院での体験と比較して感じている「やりがい」であった。具体的内容が記述されていなかったため、どのような体験なのかについては不明であるが、他の6つに分類された「やりがい」についても、治療を目的とした一般病院では、実践することが難しいであろうと推測される。一方特養は医療ニーズの高い高齢者を受け入れざるを得なく

なってきたという昨今の状況はあるが、生活の場という位置づけであり、今回分類された「やりがい」を感じやすい看護実践環境であるといえる。【病院ではできない体験ができること】は、これまでの「やりがい」を包括した表現であると捉えられないだろうか。

なお、本研究では、対象者の特性と「やりがい」の関連はみていない。このことについては、G県下全地区の検討をするときに詳細にみていく予定である。

まとめ

本研究では、特養の看護職の実態の一部を検討し基礎資料とすることを目的とし、G県下2地区（C地区・T地区）の特養で働く看護職の「やりがい」の内容の検討を行った。

C地区32名、T地区19名、計51名を対象に分析を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 看護職の特徴は、病院勤務経験のある准看護師で、年齢は30～50歳代、現職場での経験年数は1～10年未満が多い傾向がみられ、現職場以前の経験年数は1～20年以上とばらつきがみられた。
2. 所属施設は、1990年代に開設された50～80床の社会福祉法人施設が多く、入所者は、要介護4～5の後期高齢者女性が多い傾向を示した。
3. 51名中35名が回答した特養看護職の「やりがい」は、
【入所者の状態がケアによって好転したとき】、
【入所者・家族から肯定的評価が得られたとき】、
【入所者・家族の信頼が得られること・とき】、
【入所者との触れ合いを大切にできること】、
【病院での実践経験を活かし、自分の考えで判断し実施すること】、
【最期までその人らしさを大切に
した生活援助中心のケアができること】、
【入所者の笑顔・生活している姿を見ること】、
【自分のこととして高齢者の看護ができること】、
【病院ではできない経験ができること】の9つに分類された。

謝辞

ご多忙の中、個別訪問面接研修に応じていただきましたC地区、T地区の特養看護職の皆様には貴重な情報をいただきました。心より御礼申し上げます。

本報告は、第34回日本看護学会（老年看護）にて発表

したものに加筆・修正したものである。

引用文献

- 1) 原敦子, 小野幸子, 早崎幸子ほか: G県の特別養護老人ホームに働く看護職の“やりがい”(第1報), 岐阜県立看護大学紀要, 3(1); 22-28, 2003.
- 2) 厚生労働省大臣官房統計情報部編: 介護サービス施設・事業所調査, 平成13年; 72-77, 財団法人 厚生統計協会, 2003.
- 3) 前掲 2) 304-305.
- 4) 前掲 1).
- 5) 平松一夫: 介護保険と医療施設 サービスの戦略, 第1版; 76-78, 医歯薬出版, 1998.

(受稿日 平成16年2月17日)